

1. 日時 平成 31 年 2 月 1 日（金） 15:00～17:00
2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室
3. 出席者（委員）山口照美 委員、福永光伸 委員、梅田和子 委員、
篠崎静夫 委員、中森羊子 委員
4. 主な内容 今年度の学校経営計画及び学校評価（案）、
学校教育自己診断を踏まえた平成 31 年度学校経営計画（案）策定に向けて
5. 説明・協議

【通信制の課程 報告】

①平成 30 年度 学校教育自己診断結果について

- ・対象：生徒 1762 名、保護者 1528 名、教員 49 名
- ・回答数：生徒 292 名（回答率 16.8%）、保護者 167 名（13.6%）、教員 49 名（100%）
- ・生徒や保護者へのアンケートは、郵送・返送という形式のため、回収率は毎年 20%に満たないというのが現状である。

②平成 30 年度学校経営計画及び学校評価について

- ・将来構想検討チームについては十分な成果があった。一方で学校評価チームは活動を実施できなかった。
- ・次期学習指導要領を見据えた、各教科・科目の検討について検討会を 2 回実施し、教育課程やシラバスなどの検討を行った。
- ・研究スクーリングは 1 範囲に 12 教科中 4 教科で実施したが、形骸化しているのではないかという教員の声も上がっている。今後、効果的な研究協議の在り方を検討していきたい。

③平成 31 年度学校経営計画及び学校評価(案)について

- ・公立の通信制高校として、平成 28 年の文部科学省「高等学校通信制教育の質の確保・向上のためのガイドライン」を踏まえた生徒サポートの制度構築を行っていく。
- ・進学希望者や各種検定試験対策にとどまらず、学習意欲の高い生徒に対する学習支援を検討していく。
- ・今年度、生徒向け学校教育自己診断のレポートやスクーリングに関する項目で 90%以上の目標を達成したので、次年度以降はこれを維持していきたい。
- ・学校ホームページの充実について、生徒や保護者向けのみならず、府民が通信制教育を理解できるように進めていきたい。
- ・運営委員会の機能強化をおこなっていく。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れて、「桃谷通信で育てたい力とは？」という議論を広く行っていきたい。

【通信制 協議・質問】

1 卒業率について73%は十分な数字だと思うが、まだ目標値をあげていく方針か。

⇒ 73%は卒業予定生のうちの卒業率である。入学者のうちの卒業率ではない。通信制独自の制度で卒業予定の生徒を5月ごろにリストアップするが、そのリストに載ってきた生徒の中での割合を指している。

2 中期的目標の2の(3)について、eラーニングについての文言を外されているが、eラーニングをしないということか。

⇒ eラーニングをしないということではない。この3年間では、再編整備の計画を具体化していくことに力をいれていきたいと考える。それよりも、再編整備をどう具体化していくかということに力をいれたいと思い文言を外した。

3 中期的目標の中に、働き方改革のことについては入れなくてもよいか。

⇒ 運営委員会に学校評価の機能を持たせてもっと強化したい。業務の偏りや改革すべき諸課題について引き続き検討を進め、業務の洗いだしもしていきたい。

4 中期的目標の2の(3)のウについて、「さらに学びたい生徒への支援」という表現だが、「さらに学びたい」というところが、すこし抽象的ではないか。

⇒ 具体的な文言に改めるので、後日、該当部分の表現をメール等で提示することを含め、平成31年度の「めざす学校像」「中期的目標」は、承認された。そこで、「学習意欲の高い生徒に対する学習支援の検討・確立」に文言修正したところ、委員全員の承認を得た。

【定時制の課程Ⅰ・Ⅱ部の報告】

①平成30年度学校教育自己診断結果について

・生徒・保護者・教員のすべてにおいて肯定率50%以上を9割の項目において保っており、肯定率70%以上の項目も生徒で6割、保護者で7割と全体的な満足度は高いと考える。

・生徒、保護者アンケートともに、昨年度の「桃谷高校に入学してよかった。」から新しく「学校へ行くのが楽しい。」へ問い方が変わり、かなりニュアンスが変わってしまったため、数値が下がっている。本校の場合、過去の背景などの影響から学校に対して「楽しい」となかなか素直に書けない生徒・保護者も多いと分析している。

・生徒アンケートにおける授業についての評価は、授業力向上の取組みもあり、積極的にICT機器の活用やアクティブラーニング的な要素を授業に導入したため、わかりやすい授業をするために工夫していると評価されている一方で、授業に対して「楽しい」という生徒の期待に応えられていない部分もあ

るので、継続的に努力していく必要がある。

- ・生徒アンケートにおける学校行事については、これまで本校が大切にしてきた取組みが評価されて、高い肯定率を維持できている。

- ・生徒、保護者アンケートともにいじめについての項目で肯定率が少し下落しているが、高い水準を維持できている。しかし、下落した原因として、教員がまだ見つけられていない生徒の悩み、不安などが隠れている可能性があるため、さらにきめ細かな対応をしていく必要がある。

- ・保護者の方に本校の様々な教育活動・学校情報を十分に知っていただけるよう、情報発信の方針の検討と質の向上に努めたい。

- ・教職員評価について一部大幅な数値の下落が認められるが、アンケート時期が本校の再編整備の発表の時期と重なったため、職場内で一時混乱が見られたことが影響の一因であると分析している。

- ・次年度は、再編と本校の閉課程に係る取組みを並行して行っていく必要があるため、意思伝達や情報交換を密に行えるような仕組みづくりが急務である。

②平成 30 年度学校経営計画及び学校評価（案）

- ・保護者懇談や家庭訪問の実施について課題が残った。

- ・コミュニケーションタイムを実施し、教員からのアイデアを 3 件（携帯指導・部活動指導時間確保・HP 刷新）採用し実施した。

- ・コンピテンスに基づくアウトカム指標について、新入生の入学時と 1 年後の肯定率の変化は増加し、在校生の経年変化でも増加した。

- ・12 月末の時点で進路希望未定者は 6.7%であった。進路説明会を 4 回実施し、参加者肯定率は 96.3%であった。

- ・ICT 機器活用が 64.0%、発表機会のある授業が 46.4%であり、昨年度からは改善したものの引き続き教員の意識改革が必要。

- ・人権学習後の生徒肯定率は 96.4%と高い評価であった。

- ・支援計画作成人数（計 14 人）、検討会議（5 回実施）、関係機関を交えたケース会議等（12 月末時点で 32 回）、教員研修の実施（2 回）に取り組んだ。

- ・規律指導において、学校教育自己診断の生徒肯定率は高い水準を維持している。

- ・部活動について生徒の自己診断の「学校は部活動にも参加しやすいように工夫している」が昨年よりも上昇している。学校行事についても校外学習の参加人数が減少したが、体育祭、文化祭ともに増加し、生徒の満足肯定率は 3 行事ともに 80%と高い水準であった。

③平成 31 年度学校経営計画及び学校評価（案）

- ・閉課程までの課題を明確化することを加筆。

- ・広報活動について、編入・転入生徒対象の情報発信を充実させていく。

- ・地域と連携した防災への取組みを推進し、危機管理に対して生徒の安全を最優先した計画を立てる。

- ・授業評価の結果を受け、各教科の授業において工夫した取り組み内容について成果発表報告を行って情報共有する。

- ・教育相談に関して、学校独自で臨床心理士を SC として招聘する。

- ・授業を大切にすることを念頭におき、引き続き規律指導を校内で統一して行う。

・生徒の自主活動の充実を図るための環境整備とアナウンスを行う。

【Ⅰ・Ⅱ部 協議・質問】

1 課程を閉じるというのはすごく大きなことで、生徒や保護者の不安も大きいと思う。だからこそ、進路保障に力を入れて取組んでいるのがわかるので、ぜひ頑張ってもらいたい。

2 Ⅰ・Ⅱ部に限らず、どの課程でも加えてもらいたいのですが、性教育について取り入れていただきたい。大阪市ではすべての中学校の全学年で毎年 3 時間ずつ性教育を行うようになりました。性教育と生教育として、命の重さや望まれて生まれてきたことだとかを実感する内容を小中学校でも行っています。社会人経験者の生徒も混じっているなので、難しいとは思いますが、取り入れていただけると嬉しい。

3 生徒向け学校教育自己診断の設問 1 で、項目の尋ね方を変えているのはなぜか。

⇒府教委からの指示で増やした項目である。また、アンケート項目が増えると生徒の負担になるため、これまでの設問は削った。

4 スマートフォンの指導について、授業中に机の上で触っている生徒が減ったということだが、これは他のことをしているということではなく、授業に集中できているということか。

⇒スマートフォンに触れないということで、授業に気持ちが向いている生徒は増えていると感じている。

⇒協議を踏まえ、平成 31 年度の「めざす学校像」「中期的目標」が承認された。

【多部制単位制Ⅲ部の報告】

①平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価（案）について

1 「確かな学力の育成及び教員の授業力の向上」に関して

- ・授業力向上のために、研究授業や授業見学を行った。
- ・スマートフォン・携帯電話の校内での使用法についての指導を行い、授業規律の確立に取り組んだ。
- ・経験年数の少ない教員向けのフレッシュマンセミナーで授業づくりの研修を行い 11 月の授業相互見学期間に対象者が授業を公開した。初任者は別途研究授業と研究協議を実施し、その後の授業につなげた。また、「教育課程や教育計画の作成について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率が上昇した。教員が授業改善に取り組んだことと表れだと思える。しかし、イの「他の教員の授業見学を行い授業改善を行っている」の肯定率が低下している。新学習指導要領も見据えて、引き続き授業改善に向けた取り組みを進めていく。

2 「キャリア教育及び進路指導の充実」に関して

・キャリア教育に限らず、生徒が安心して学校に通い自己実現を果たすために、教育相談機能の向上を考えている。しかし、「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率が昨年度より低下している。本来、教職員がカウンセリングマインドを持って指導するということは、100%であるべきという認識をしているため、改善の必要があると考える。

・進路指導については、キャリアカウンセラーを活用し、きめ細やかな指導を行ってきた。その結果が、学校幹旋の就職内定率 100%につながっていると考える。また生徒・保護者への進路情報周知の肯定率が下がっている。進路だよりでの情報提供や卒業生の就職者企業訪問のインタビューを実施し、まとめたものを生徒に還元するという取組みを行ったが結果にはつながらなかった。今後は周知方法についても検討していきたい。

3 「豊かな心の涵養及び社会の一員としての自覚の醸成」に関して

・生徒の「学校へ行くのが楽しい」、保護者の「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」の肯定率は目標には達しなかったが、昨年度より上昇している。

・学校行事については、生徒の意見を取り入れている。生徒の学校行事に対する肯定率もほぼ目標に到達している。また人権教育については、肯定率は昨年度よりも上昇している。

・保護者向けの「学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てている」の肯定率が昨年度より非常に高くなっている。防災や安全教育に関しては、どちらも目標には達しなかった。地震と火災を想定した避難訓練を一回ずつ実施した。地震については、停電になったことを想定し、校舎の電気を消して避難をするといった工夫をした。ただ目標に達していない部分については引き続き検討していきたい。

4 「学校運営体制の確立及び教職員の資質向上」に関して

・学校の組織運営について、「会議の有効機能」、「分掌や年次の連携」の肯定率が大幅に上昇している

・学校教育自己診断教職員の「准校長のリーダーシップ」の項目の肯定率が5割強と低い値となっている。リーダーシップを発揮し連携をはかることが良い形だと考えるため、そこをめざし取り組んでいきたい。

・フレッシュマンセミナーは年間通じて計画通り実施した。また経験年数の少ない教員が多いため、人材育成の観点から校外での研修には積極的に参加するよう促した。研修内容に関して、職員会議等で情報共有を行った。その結果、「研修成果の伝達機会の設定」の肯定率は大きく上昇していると考えられる。

②平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価（案）について

・めざす学校像について、平成 30 年度と変更はなし。

・中期的目標についても大きな変更はないが、4（3）の「再編整備計画を踏まえ、今後のⅢ部の在り方についての方向性を示す。」について、2020 年度の募集から「Ⅲ部」ではなく「夜間定時制」としての募集になる。教育内容や方法はこれまでと変わりなく、現行通りの教育課程を続けていく。公表された再編整備計画では、定時制課程のことについても次のように記載がある。「近年、昼間の高校への進学率が上昇していることなどから、学校の小規模化が一層進んでおり、円滑な学校運営において課題が拡大している。そのため、就学セーフティネットとしての役割を踏まえつつ、望ましい学習活動の確保に

向けて、学校配置の在り方も含めた対応方策を検討している。」定時制の再編整備等もありうるというような内容であると感じている。そういった意味で、これまでのⅢ部が行ってきた教育を継続するためには、今後のⅢ部の在り方について検討が必要だと考え、中期的目標の中に4（3）を新たに設定した。

・目標値の変更について、2「キャリア教育及び進路指導の充実」について、（1）エ 「学校幹旋の就職内定率 2021 年までに 90%以上を維持する。」としている。今年度の中期的目標 95%から、5%低下しているが、就職希望者が 20 名に満たない状況であり、95%を維持しようとした場合、全員が就職しない限り、その数値には達しない（実質 100%も目標としていることになる）。就職内定率の目標数値は、100%をめざすべきだが、中期的目標の中での記載は、90%とする。3「豊かな心の涵養及び社会の一員としての自覚の醸成」について、（1）イ 教員向け学校教育自己診断における項目の「主体的な活動の支援」の肯定率が、今年度上昇したということを受けて、「90%以上を維持する。」とした。併せて、（2）イ 教員向け学校教育自己診断における項目の「人権教育の推進」についても、今年度の肯定率 100%を受けて、90%以上を維持するとする。

・3本年度の取組み及び自己評価の1 「確かな学力の育成及び教員の授業力の向上」について、新学習指導要領を踏まえ、「主体的、対話的で深い学びにつながる授業改善を進める。」ということをも具体的な取組みとして設定した。該当の評価指標に関しては、「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を今年度並みの 90%を維持するとした。2の「キャリア教育及び進路指導の充実」について、生徒への進路情報の周知の方策検討が必要だと考えている。併せて、学校幹旋の就職内定率については、中期的目標と同様、「90%以上」に変更している。3の「豊かな心の涵養及び社会の一員としての自覚の醸成」について、2 ア について、府立学校では次年度から、道徳教育推進教師を指名し、推進教師を中心に、学校全体の教育活動を通じて、道徳教育を進めていくとなっている。併せて、道徳教育の計画についても今年度まで提出したものと異なった様式で次年度末に提出するとなっている。それを踏まえて、Ⅲ部における道徳教育の在り方について検討を進める。イ 安全・防災に関して、廊下に避難経路を掲示することで生徒の防災・安全意識の向上を図る。

・4の「学校運営体制の確立及び教職員の資質向上」について、肯定率が上昇した項目（会議の有効機能、連携に関する項目等）は、引き続き維持できるよう努める。また、「今後のⅢ部の在り方について議論の開始」について、将来構想会議（仮称）を立ち上げ、検討を始める。具体的な記載はしていないが、Ⅲ部では毎年、外部講師を招き、性に関する講習会を全校生徒が受ける機会を設定している。また、保育の授業では、府内保育園で乳幼児にふれる機会がある。そういった経験は性の在り方、大切さを学ぶ貴重な機会であるため引き続き行っていきたい。

【定時制の課程Ⅲ部 協議・質問】

1 時代の変化があると思うが、どのような生徒さんに来てほしいと考えているか。

⇒ 現在、通信制の課程やⅠ・Ⅱ部と同じように、多様な生徒が在籍している。セーフティーネットという観点でも、中学時代に不登校であった生徒、過去に学校を辞めて転学してきた生徒などさまざまである。中学校の夜間学級を卒業されて入学してきた生徒が二十数名いる。学びなおしや、これまでうま

く学校制度に合わなかった生徒の受け皿になっていると思う。

2 中期的目標に書かれている確かな学力について、「わかる授業」という言葉が良いなと思いました。しかし、自己評価のところでは「主体的・対話的で深い学び」というのが新たに付け加えられているが、これは生徒の学び方のことなので、学び方ではなく、本当にわかっているかの分析をすべきだと思う。近年では、学習言語がわからないという児童が小学校でかなり増加しているようで、そういう実態なども細かに見ていただけたら「わかる授業」という言葉も充実してくるのではないかと思う。

⇒ 生徒の学校教育自己診断をもとに「授業がわかりやすく楽しい」というのがあるので、それを用いながら取り組んでいきたい。

⇒ 協議を踏まえ、平成31年度の「めざす学校像」「中期的目標」が承認された。

【学校運営協議会について】

- ・高等学校には学び直しというニーズが確実にある。自立学習、キャリア教育、チーム学校の3つのキーワードをもとにした教育が生きる力につながっていく。
- ・本校は、性別や年齢等々で生徒を選ぶことがなく、生徒たちを丁寧にきめ細かく育てて社会につないでいく高校であり、今後もその活動を重視していきたい。
- ・保護者の中には、子どもに対する悩みや思いを発信できずにいる方も多い。保護者が参加する入学式などの場で、先生から保護者への言葉やアクションなどがあれば良いと思う。
- ・桃谷高等学校が行っている取組みについて、もっとうまく発信していく方法を考え、PRしていくべきである。